

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市南小泉児童館	
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団	
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和5年度 20,872人(前年度比 110.3%) ・令和4年度 18,924人 ・令和3年度 16,759人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 34,143千円 (33,749千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。 なお、職員による虐待や子どもの心身に有害な影響を与える行為を防止する取り組みにおいて、こども基本法及び児童の権利に関する条約を基に資料を作成し、館内研修等を開催して子どもの人権について職員間で共有すると共に、地域懇談会で地域に向けても発信し児童館の取り組みと合わせて周知共有に努め、子どもの人権に十分に配慮しながら、子ども一人ひとりの人格を尊重して支援が行われている。	19/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>児童健全育成事業では、ユニバーサルスポーツである「ボッチャ体験」や「のびすく若林」への訪問活動、毎月の定例行事「若チュウタイム」での集団遊びや工作などを実施しました。この中で、多くの地域の方々やボランティアの皆様の協力により、地域での活発な交流活動を展開しながら、ねらいである児童の社会性や自立する力の育成に繋ぐ道筋ができました。</p> <p>子育て家庭支援事業では、ボランティアの「かざぐるま」や「のほほん」の皆様の協力により、布を使った工作やおもちゃ遊び、表情豊かな読み聞かせ活動を行うことができました。参加した乳幼児親子は、優しい布の肌触りや、様々なお話の世界に浸りながら、心の触れ合いを楽しんでいました。「赤ちゃん広場」では「だっこばあば」の皆様との触れ合いを通し、世代間の交流を図ることができました。今後も乳幼児親子同士の交流や育児に関する情報交換の機会を提供して参ります。</p> <p>地域交流推進事業では、南小泉地区の歴史や地域の特色に触れることをねらい、「ふるさと探訪」を行いました。仙台市教育委員会文化財課による出前講座、陸奥国分寺薬師堂や法領塚古墳の親子での見学会、保春院での座禅体験により、自分たちの住む地域を知る機会を広げました。「ハロウィン」では、仮装した小学生が近隣の施設を訪問し、クイズや読み聞かせで、各施設の職員の方々と交流しました。「児童館まつり」では、訪れた地域の方々や子どもたちの前で、南小泉児童館ダンスチームによる元気モリモリのパフォーマンスを披露し、大変喜んでいただきました。</p> <p>放課後児童健全育成事業では、児童館での過ごし方や遊び方について、子どもたち自ら考え、課題を解決しようとする力を養うことをねらいとして、「子ども委員会」を実施しました。様々な話し合いを通して、自分たちの児童館を皆でよりよくしていくという意識が生まれつつあります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、「若チュウタイム」を短時間授業や長期休業日に開催している。運動遊びや紙飛行機やコマ、万華鏡等完成した制作物で遊べる、遊びを通した親子の触れ合いの機会となるよう材料や作り方を保護者にも知らせるなど、開催日や内容を工夫し遊びを発展させたり継続できる支援を行っており、多くの児童が参加した。「のびすく訪問隊」を募集し、同施設内にある「のびすく若林」を訪問して読み聞かせを行って乳幼児親子から好評を得ており、児童の自己有用感を育む取り組みとなっている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、「サタディひろば」を土曜日に定期的で開催し周知に努めたことで、父子での利用や家族で来館する家庭も見られ、利用者の促進に繋がった。「赤ちゃんひろば」「おはなしひろば」「布のおもちゃであそぼう」は地域のボランティアの方の協力のもと開催されており、世代間交流を図ると共に地域住民同士の交流を広げる拠点としての役割を果たしつつ、多様な取り組みで子育て家庭を支援している。</p> <p>地域交流推進事業においては、「ふるさと探訪」を新たに実施した。仙台市文化財課、地域の寺社や近隣の高校の協力を得て遺跡や文化財を親子で巡り、地域の方と交流を図りながら地域とその歴史を学ぶ機会を提供している。また、地域懇談会において、児童館の4つの事業毎に実施状況を報告するなど、様々な機会を通して児童館事業の認知向上と、地域が一体となって子どもの育ちを支える環境作りに努めている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、児童館での過ごし方や遊び方を子ども達が自分達自身で考え課題解決する力を育むことを目的として「こどもあそび委員会」を開催した。委員会に参加した児童一人一人が意見が出せるよう支援を行うと共に、話し合いの結果を児童が書き出し掲示する等、子ども達が主体的に児童館の生活を作っている自信が持てるように支援している。また、子ども会議の内容や児童の様子、担当の支援の内容や工夫など職員の支援について振り返り全体で共有しながら、より良い支援に努めている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課